

平成25年度 ほくぎん若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
若山育代	富山大学人間発達科学部・准教授		400,000 円
研究課題名	4歳児の一人遊びに対する保育実践環境モデルの作成		
研究の概要	<p>一人遊びとは、周囲に友達がいるにもかかわらず友達とやりとりをせずに一人で遊ぶことである。一人遊びは幼児の社会性や自己の確立の発達に繋がる重要なものであるにもかかわらず、従来の一人遊びの研究では、ひとり遊びを保障したり充実させたりする視点を持った実践研究が行われてこなかった。その理由は、現代の幼児教育・保育において、集団遊びの発達や援助が重視される傾向が強いためである。そこで本研究では、4歳児のひとり遊びを保証しつつ、集団遊びへと繋げていく保育実践環境モデルを明らかにすることを目的とした。方法としては、介入クラスと非介入クラスを設定したアクションリサーチ法を採用した。保育環境評価スケール(ハームス・クリフォード・クリア, 2004)と小川(2010)の提案モデル等を参考にした保育室のデザインを、1年間を通して富山大学人間発達科学部附属幼稚園の年中児クラス担任と共同して行った。</p>		
研究の成果	<p>平成25年7月と10月、平成26年1月の計3回、介入クラスに介入した。介入クラスと非介入クラスの子どもによる一人遊びの1年間の変化について、現在、分析中である。ただし、これまでに保育室の中の一部のエリアである「製作コーナー」について、7月分の一人遊びの分析を終えた。ここでは、その成果を報告する。この分析の対象となったのは、介入クラスについては2013年7月8日、9日、10日の3日間、非介入クラスについては2013年7月2日、9日、10日の3日間である。介入クラスでは、7月8日の夕方に保育室内の製作コーナーの位置と、製作コーナー内の素材及び道具の配置を変更した。変更した製作コーナーでの一人遊びの種類を、非介入クラスの年中児による製作コーナーでの一人遊びのパターンと比較した。その結果、介入クラスの製作コーナー変更前は、「留める・折る」など8種類の一人遊びが観察され、変更後には、「つなぐ・描く・見せる・プレゼントする」の新たな4種類を含む10種類が観察された。一方、非介入クラスの7月2日には、「繋ぐ・補修する」など4種類が見られ、9日と10日には、「折る・描く・留める・丸める・貼る」の新たな5種類を含む8種類が見られた。つまり、介入クラスでは、介入後に他者に自慢したり喜ばせたりすることに繋がる一人遊びが増えること、非介入クラスでは日を追うごとに造形行為に関する一人遊びが増えることがわかった。以上から、本研究でデザインした保育室では、年中児の一人遊びが充実することに加え、他者との繋がりを子どもが志向することが示唆された。</p>		
研究成果発表状況	<p>【学会発表】 若山育代 「年中児の一人遊びに及ぼす環境構成の影響 -製作コーナーでの製作活動の多様性に焦点をあてて-」, 日本保育学会第67回大会, 大阪, 2014年5月.</p>		
経費の執行状況	区分	執行額(円)	備考
	【物品費】	376,500 円	記録機器購入費・教材費
	【旅費】	23,500 円	国内学会出張旅費